

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	自己評価
<p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について 新設された博士課程および改訂された博士後期課程の新カリキュラムを実施し、検証する。</p> <p>○教育方法・内容について 新設された博士課程および改訂された博士後期課程での新カリキュラムを実施し、検証する。</p> <p>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 「厳格な学位授与体制」を構築・強化する。</p> <p>○学生支援について 相談委員会を設け、学生の生活・学習支援を行う。</p> <p>○その他</p>	<p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について 新設された博士課程および改訂された博士後期課程の新カリキュラムを実施し、検証したところ、問題なく導入されていることを確認した。 一方、シラバスを英語化することが求められつつあり、講義を担当している全教員に依頼をしている。これを踏まえ、英語による講義を進める。</p> <p>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 学位審査体制の見直しを進め、「厳格な学位授与体制」を構築・強化した。さらに、質を高めるために、検証を続けている。そのような体制下で学位取得を目指す学生の卒業後の進路についても、希望した職種への就職状況についても調査する。</p> <p>○学生支援について 相談委員会を設け、学生の研究面や生活・学習面でのカウンセリングを行った。</p> <p>○ファカルティ・ディベロップメントの体制について 教育実施体制の変更ならびに学位審査体制などについて教員にアンケートを取ることで状況を把握し、FDを行うことで共通認識を持つようになってきた。これらの取り組みは良い方向に進んでおり、引き続き実施していく。</p> <p>○学生が受けた様々な賞の状況について これまでも多くの学会、とくに日本薬学会において学生優秀発表賞を毎年数名(昨年度は5名)受賞しており、高く評価されている。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>○ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況、その結果による</p> <p>○教育課程の内容・構成</p> <p>○学生が受けた様々な賞の状況</p>	
②研究領域	
②-1 目標	自己評価
<p>○研究水準及び研究成果等について</p> <p>・特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させる。</p> <p>・分子イメージング高度人材育成事業による創薬教育/研究を推進し、理研との連携による薬学系独自の創薬大学院教育・研究を充実し、人材育成を推進する。</p> <p>・創薬等プラットフォーム事業を基盤として、創薬研究の進展を図る。</p> <p>○研究実施体制等の整備について</p> <p>・自然科学系や医療系との研究交流を活性化し、研究大学として重点化に資する新たな研究シーズを見出し、研究実施体制の構築を開始する。</p> <p>・大型研究資金獲得のための方策を他大学・研究機関や他学系と連携し、共同研究を推進する。</p> <p>・科研費等の大型外部資金獲得を推進し、教職員の研究マインド向上に資する。</p> <p>○その他</p> <p>・国際競争力を備えた価値の高い研究業績を挙げることを推進し、成果を社会還元するため、公開講座や研究系紹介ホームページ等の充実をはかり、広報する。</p> <p>・研究遂行におけるコンプライアンス遵守徹底をはかる。</p>	<p>○研究水準及び研究成果等について</p> <p>・特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を医歯薬として取組み、最終年度を終了させた。</p> <p>・分子イメージング高度人材育成事業による創薬教育/研究を推進し、理研との連携による薬学系独自の創薬大学院教育・研究を充実し、人材育成を推進し、当該過程の卒業生を複数終了させた。</p> <p>・創薬等プラットフォーム事業を基盤として、複数の創薬研究を展開した。</p> <p>○研究実施体制等の整備について</p> <p>・研究大学として重点化に資する新たな研究シーズ探索、研究実施体制構築に着手した。</p> <p>・大型研究資金獲得のための方策を他大学・研究機関や他学系と連携し、検討した。</p> <p>○その他</p> <p>・価値の高い研究業績を挙げることを推進し、成果を社会還元するため、公開講座や薬学系ホームページ、全学ホームページ等の充実をはかり、複数件広報した。</p> <p>・研究遂行におけるコンプライアンス遵守徹底をはかった。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>○論文・著書等の研究業績の状況</p> <p>○競争的外部資金受入状況</p> <p>○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト)</p> <p>○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	自己評価
<p>○地域社会との連携、社会貢献:薬剤師および一般社会人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。</p> <p>○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について:難治性感染症プロジェクトを通じて国際的な研究連携を中国の研究機関を中心に進める。また、同プロジェクトを活用して外国人研究者の客員研究員としての滞在支援を行う。</p> <p>○その他:薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p>	<p>○地域社会との連携、社会貢献:薬剤師および一般社会人を対象とした公開講座を実施し、薬剤師の卒後教育、また一般社会人に対する薬学への認識度を高めることに努めた。</p> <p>○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について:難治性感染症プロジェクトを通じて、主として中国の研究機関と研究連携を行うとともに、外国人客員研究員の滞在支援を行った。韓国・成均館大学との間で、博士後期課程におけるダブルディグリー制度を実施することで合意した。</p> <p>○その他:一般社会人向けに薬用植物園を公開し、生薬を中心とした薬学に関する理解を深めてもらうよう努力した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>○公開講座等の実施状況</p> <p>○地域貢献・国際貢献への協力の状況</p>	
【総括記述欄】	
<p>教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、26年度に得られた成果を踏まえて、教育領域では、博士課程、博士後期課程の新カリキュラムの実施および検証を進め、より質の高い大学院教育を目指す。研究面では、難治性感染症プロジェクトに続く、大型プロジェクト、大型研究費獲得を目指す、検討を進める。社会貢献領域においては、引き続き公開講座を実施し、薬学に関する最新情報を一般社会人、薬剤師に提供するとともに、アジアの有力大学を中心に、国際交流を深めるようつとめていく。</p>	